

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 30

学校名・団体名	御船町立七滝中央小学校
コ ー ス	学校支援
活動・研究のテーマ	「地域とともにある学校づくり」の充実を目指して
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 研究の構想</p> <p>(1) 主題設定の理由 家庭・地域の実態、児童の実態から、本校が果たすべき役割は、「校区の広がりによる地域とのつながりを一層深めること」「児童に地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材に育成すること」である。つまり、学校と地域の人々が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを目指して取組を推進することが必要であると考え、本主題を設定した。</p> <p>2 研究の視点</p> <p>(1) 視点1『組織の編成・活用』 視点1は、学校と家庭・地域が学校の教育目標及び校長の経営方針、経営の具体的実践事項、児童及び学校の課題等の情報を共有し、ともに目標の達成や課題解決に向けて連携・協働して教育活動を進めることができる基盤としての組織を編成し、活用することである。</p> <p>(2) 視点2『活動内容の「見える化」と校内研修の充実』 視点2は、学校と家庭・地域が、連携して取り組んでいる学習応援団の活動、体験活動、地域行事等の諸活動が、中心的な役割を果たしてきた教職員の異動や地域の担当者の交代等により、停滞したり、満足できる内容ではなかったりすることが起こらないように、活動内容の「見える化」を図ることである。また、熊本版コミュニティ・スクールに対する職員の関心や内容理解を促すことができるように、校内研修の充実を図ることである。</p> <p>(3) 視点3『学校と家庭・地域の双方向の関係の強化』 視点3は、学習応援団、体験活動等の地域による学校教育への応援内容が充実するだけでなく、地域の祭りや敬老会等に児童、職員が参加したり、お世話になった地域の方々を招待しての会食を行ったり、地域の方々の学校支援の様子を情報発信したりすることにより、学校と家庭・地域が双方向に支援し合う関係が築け、連携・協働がさらに促進されることである。</p> <p>3 研究の実際</p> <p>(1) 視点1『組織の編成・活用』の実際</p> <p>①「魅力ある学校づくり協議会」(年3回開催)の編成・活用</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">魅力ある学校づくり協議会</p> </div> <div style="width: 70%; padding-left: 10px;"> <p>組織の編成・活用にあたって「構成メンバーの見直し」を行った。平成25年度に発足した「魅力ある学校づくり協議会」は主に学校評議員会の役割を果たしていた。そこで、委員の構成、人数を見直し、区長代表、学習応援団コーディネーター、PTA三役、地域連携担当を新たに委員に選定し、より実質的で活発な議論ができる会議にした。今後は「学校運営協議会」へと発展できるよう体制づくりを進めている。</p> </div> </div>	

② 「学習応援団」の活用

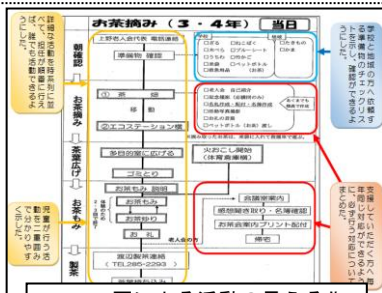


学習応援団の様子

学習応援団編成のねらいは3点ある、①地域人材の掘り起こし、②地域が身近に感じる学校づくり、③学校総体としての地域教育力の積極的な活用である。年間計画を作成しただけでは、地域教育力の積極的な活用は促進されない。学習応援団の組織を編成したことで、確実な人材の確保、学校教育活動への地域の理解・協力の推進、学校総体としての地域教育力の活用につながっている。

(2) 視点2『活動内容の「見える化」と校内研修の充実』の実際

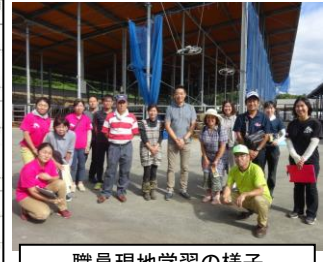
視点2では、誰が担任になっても活動ができるよう、体験活動のフロー図による「見える化」、「地域とともにある学校」の年間計画の見直し、職員現地学習による地域理解の取組を行った。



フロー図による活動の見える化

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
1年	【学習応援団】			防犯検閲係 計算○付け				音遊び会	自動車比べ園	
	【体験】	熊鷹どり生 ジュース作り生 芋煮会生	舞ジュース パーティ生						芋煮会生	玉葱餅会生
2年	【学習応援団】		計算○付け	音楽劇団侍団		敬老会・上野	音楽会	音遊び会 かけ第九園	芋煮会生	玉葱餅会生
	【体験】	熊鷹どり生 ジュース作り生 芋煮会生 玉ねぎ収穫生	玉ねぎ収穫生 舞ジュース パーティ生							
3年	【学習応援団】		かけ第九園	林田龍貴さんの 学習演説		敬老会・上野	競争のころの くら風		農業の仕事 展	
	【体験】	お茶会・夏 玉ねぎ収穫生	お茶会園 玉ねぎ収穫生							

「地域とともにある学校」の年間計画

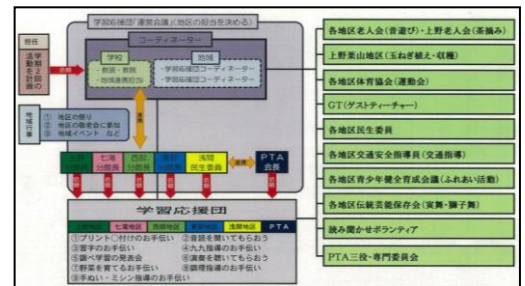


職員現地学習の様子

(3) 視点3『学校と家庭・地域の双方向の関係の強化』の実際

① 学校への支援活動

家庭・地域から学校への支援活動の充実にあたっては、学校だけではなく、家庭・地域の方々が活動への充実感を感じたり、児童とのつながりを深めたりすることが大切である。本校では、様々な団体と連携しながら、この活動の充実を図っている。地域の方々と児童との「交流」を大切にした学習を行ったことで、地域の方々の笑顔も増え、「楽しかった、また来るね」と児童から元気ももらい帰る姿が見られるようになってきている。



様々な団体との連携

② 学校からのお返し・貢献活動

地域に支援してもらっただけではなく、児童や職員も積極的に地域へでかけ、地域の活性化に貢献するような双方向の関係を強化していくことが大切であると考え取組を行っている。

学校だより(コミュニティ・スクール通信)は、学校教育活動の地域や保護者への情報発信とお世話になった方へのお返しのために発行している。また、積極的に地域行事に参加し、児童が「太鼓」や「寅舞」等の伝統芸能を披露している。



学校だより



寅舞150周年祭 参加

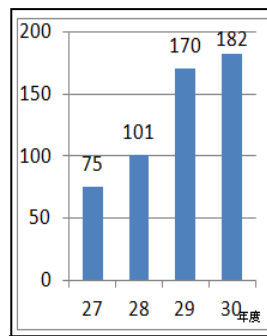


熊野座神社 太鼓披露

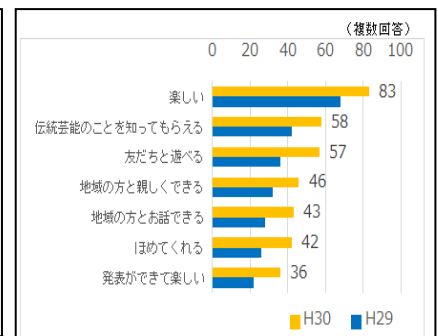
4 研究の成果や児童への効果等

12月までに182名(延べ)の方に、学校へ支援に来ていただいた。また、地域行事に対する児童の意識も好意的に高まっており、本研究を通して、「地域とともにある学校づくり」の充実が図られたことがうかがえる。交流活動後に地域の方から「子どもと勉強できて、心の洗濯ができました。」とお礼を言って、大変満足して帰られる方もいらっしゃった。

今後とも、ますます魅力ある学校づくり、地域に愛される学校づくりを進めていきたい。



学校へ支援していただいた人数の変化(延べ人数)



地域行事に対する児童の意識調査